

*** 1888年の大子午儀「レプソルド子午儀」の観測野帳を発見**

アーカイブ室新聞 397号に「彗星(ウ氏)比較星観測野帳発見」、第398号に「長崎子午儀観測一」という観測野帳発見」という記事を書いた。これ等の観測野帳の観測記録欄の最上段に、「TRANSIT OBSERVATIONS」と書かれているので子午儀の観測野帳と思われるが、「長崎子午儀観測」が大子午儀で行われたはずはなく、「彗星(ウ氏)比較星観測野帳」には大子午儀で観測された記述はない。

今回は1888年7月17日～1891年5月1日の期間の大子午儀(レプソルド子午儀)の観測野帳と思われる2冊の観測原簿(写真1)を発見した。この観測野帳(観測原簿)のページの最上段には「TRANSIT OBSERVATIONS」と印刷されている。この帳面はかなり虫食いの痕跡(写真2)が残っている。

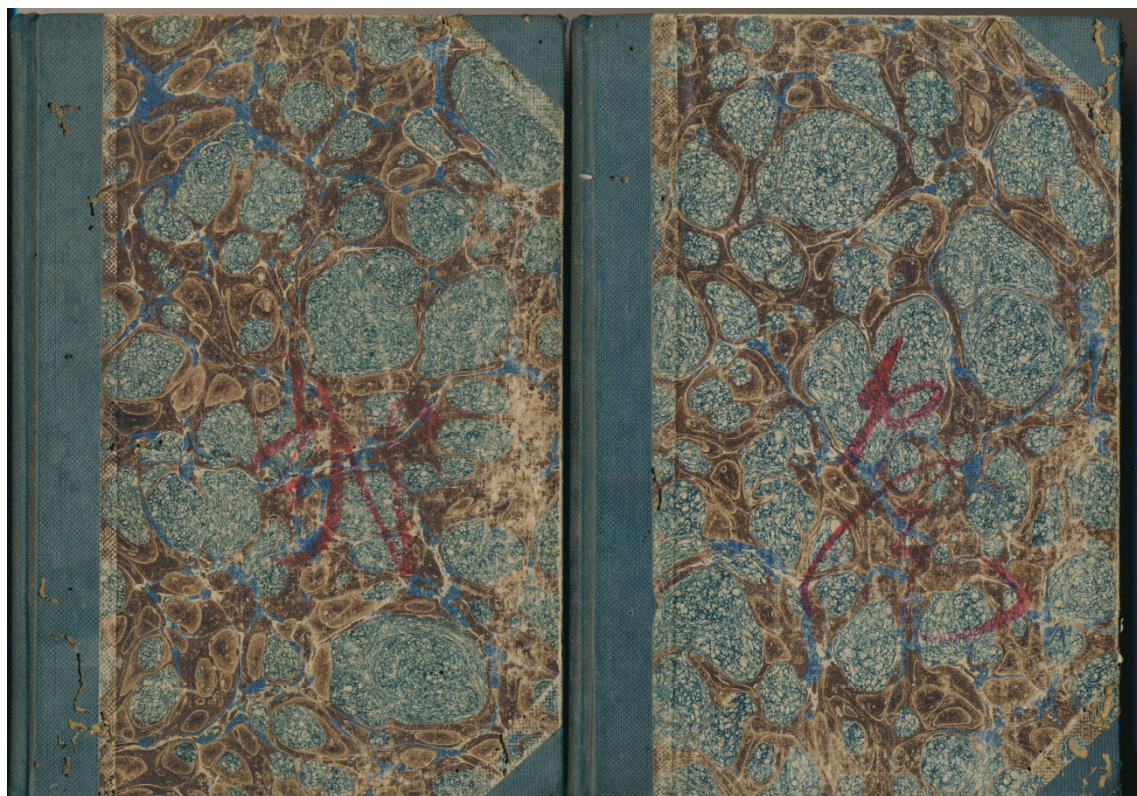


写真1 左の表紙には「弐」、右の表紙には「参」と書かれているように見える

1冊目の表紙には「弐」と書かれ、2冊目には「参」の旧字の「参」と書かれているように見える。なぜ「弐」が旧字の「貳」でないのか疑問が残るがそのよう見える。それなら「壹」の旧字の「壹」と書かれた野帳があるはずだがまだ発見されていない。

1冊目の表紙をめくったところには、「千八百八十八年七月十七日より八月十四日まで」(写真2)と記されているように読める。そして最初の観測ページには確かに1888 July 17と記載されており、このページには、赤字で「大子午儀」(写真3)と書かれている。また

この1冊目に赤い字で「大子午儀」と書かれたページは、1888年7月17日の最初のページと、7月19日（と思われる）、7月20日のページのみである。それぞれのページに観測日が書かれているわけではないが、日付のないページは同じ日が続いていたと思われる。1ページに2個の星の観測記録を書くようになっており、

最初の1888年7月17日（3ページ）に観測された天体は、 β Libare、 ν^1 Bootes、Jupiter、 μ Serpentis、 ε Coronae Borealis、 β Scorrpius

7月19日（6ページ）に観測された天体は、 β Libare、 ν^1 Bootes、Jupiter、 β Serpentis、 ε Coronae Borealis、 β Scorrpius、 δ Ophiuchus、19 Ursae Minois、Moon、 β Hercules、 ζ Ophiuchus、

7月20日（3ページ）に観測された天体は、 μ Bootes、 ν^1 Bootes、 α Coronae Borealis、Jupiter、7月26日（7ページ）に観測された天体は、384、390、400、405、412、415、419、420、427、431、444、448、とカタログ番号のような番号で記入された星。

7月27日（7ページ）に観測された天体は、Jupiter、392、394、397、400、405、410、412、415、418、419、420、431、435

7月30日（4ページ）に観測されたのは、257、258、259、260、263、264、268、

8月6日（8ページ）に観測されたのは、Jupiter、223、226、369、76、星の名前のない観測が8個、92、

8月11日（4ページ）に観測されたのは、601、255、602、257、258、259、268、

8月12日（4ページ）に観測されたのは、92、241、483、246、249、253、254、

8月14日（3ページ）に観測されたのは、599、92、244、246、249、253、601と続いている。

2冊目の「蓼」は1888年8月18日（7ページ）から始まっており、1888年8月31日まででは観測の日付の最初に「大子午儀」と朱筆されている。

8月18日に観測された天体は、92、241、244、484、249、255、602、257、258、・・・と続くが、星の名前の欄に、58、44、30などと3つの番号が書かれたりする。続いて337、260、Moon、

1888年8月25日（6ページ）に観測された天体は、263 (110 Herculis)、264 (β Lyrae)、268 (γ Librae)、 ζ Aquilae、604 (π Sagittarii)、496 (θ Lyrae)、273 (τ Draconis)、276 (ι Cygni)、498 (θ Cygni)、277 (γ Aquilae)、280 (α Aquilae)、

8月31日（6ページ）に観測された天体は、270 (ζ Aquilae)、604 (π Sagittarii)、496 (θ Lyrae)、273 (τ Draco)、275 (β Cygni)、605 (κ Sagittarii)、498 (θ Cygni)、276 (δ Cgni)、280 (α Aquilae)、283 (β Aquilae)、286 (γ Sagittarii)

1891年3月7日（2ページ）に観測された天体：20 Navis(?), 31 Lyneis(?), δ Ursae Major, Gr1450

1891年5月1日（2ページ）に観測された天体：9 Draconis、33 Sextantis、 γ Hydrae

これら2冊の「大子午儀」の観測野帳が発見されたので、すべてのページをスキャナーで読み込み、デジタルデータとして保存した。1888年といえば、東京天文台が正式に発足した年である。